

(高 田)

ほぼ断定というのは90%以上の信頼性があるということが、報告書には書いてあります。

(鈴 木)

高田さんにはその全体的な状況についてお話を伺ったのですが、ここからだんだん引きつけていって、では日本ではどうなのか、新潟ではどうなっているのかというお話を谷中センター長からお聞きしたいと思います。

県の地球温暖化防止活動推進センターができたのは何年でしょうか。

(谷 中)

平成17年4月に知事から指定を受け、現在、3年目です。

(鈴 木)

県としても人ごとではない、自分たちでも対策を講じなければいけないということでセンターを指定し、その責任者を務めていらっしゃる谷中さんから、我々に引きつけた形の温暖化がどう進んでいるかというお話を伺いたいと思います。お願いします。

(谷 中)

今、御紹介のあった谷中です。都道府県各1か所ずつ法律に基づいて指定されているというのが温暖化防止活動推進センターです。

気象庁、気象台等のデータをもとに、日本ではどうなんだ、新潟ではどうなんだという現状と、それがどうなっていくかという予測の話をしたいと思います。

このグラフは、1900年頃から100年くらいの間の日本の年平均気温の変化を示したものです。日本各地で約100年間観測しているところはまだあるのですが、この基になったデータは、都市化の影響をほとんど受けていないと思われる17か所のものです。たしかに、毎年の気温変動というのはけっこうあるのですが、これを100年間の傾向として見ると明らかに右肩上がり

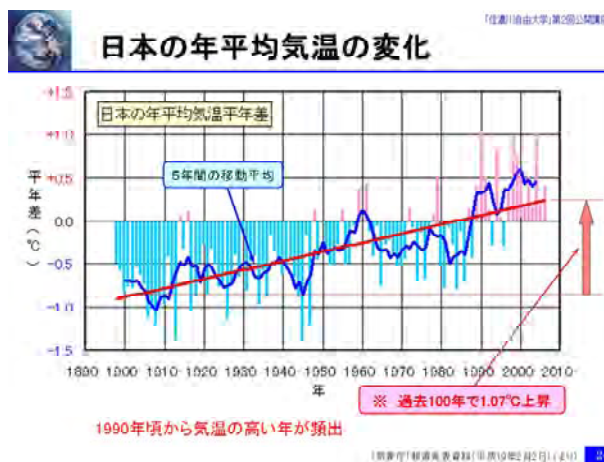


図-24

で、特に最近では気温の高い年が圧倒的に多くなっています。過去100年間で1.07度気温が上がっています。先ほど高田さんから、世界全体では過去100年間に0.74度上がったというご説明がありましたけれども、それよりも明らかに大きい幅で日本の場合には気温が上がっています(図-24)。

これは新潟市内の信濃川べりにある新潟地方気象台での観測結果です。100年間で見ると1.2度上昇しています。新潟市の場合、きっと都市化の影響も多少はあるのですが、新潟市で、過去100年の間で世界の平均よりも大きい幅で、確実に温暖化が進んでいるというグラフです。ここをしっかりと見ておいていただきたいと思います。とりわけ最近の20年間は、平均より高い年が圧倒的に多くなっています(図-25)。

この図は同じく新潟地方気象台での観測結果で、青い色は日最低気温がマイナス5度を下回った日数です。昔はひと冬で十何日もマイナス5度を下回った日がけっこうありました。1945年に至っては15日を超えています。この年を境にしてマイナス5度を下回る日数がどんどん少なくなっていって、最近20年間ではほとんどないわけです(図-26)。

新潟市内に長い間お住みなっている方は分かると思いますが、30年くらい前は、ひと冬で二日くらいは道路がつるつるに凍って、バスも乗用車も橋の緩い勾配を上れなくて大渋滞ということが毎年のようにありましたし、水道の水が随分凍ったものですが、最近はそんな心配すらしませんよね。昔も日最高気温が35度を上回った「猛暑日」は、昔も確かにあったのですが、過去100年間を見て、明らかに、最近の十数年はその日数が非常に多くなっています(図-27)。

### 新潟市の年平均気温の変化

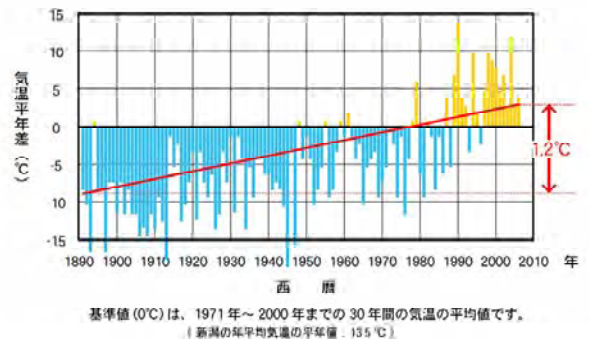


図-25

### 暑い日、寒い日の年間日数(新潟市)

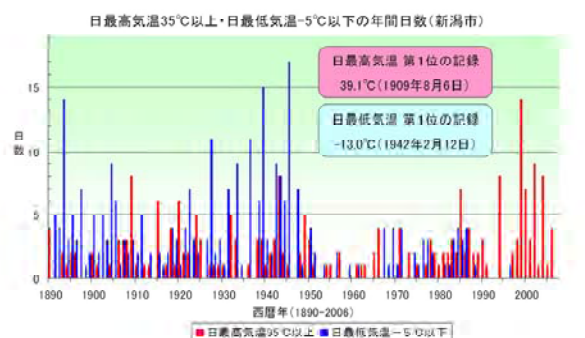


図-26

### 熱帯夜・冬日の日数の将来予測

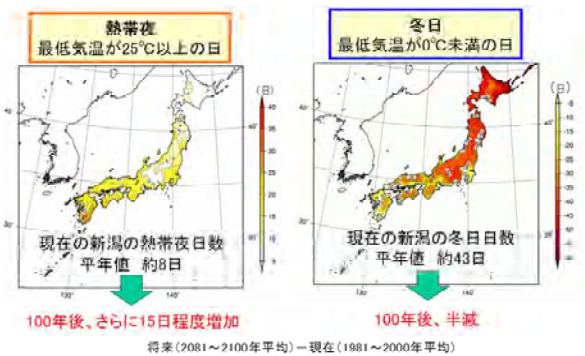


図-27

この図は、このまま温室効果ガスを出し続けていったらどうなるかということについて、気象庁が精緻なモデルを作って、100年後の地球全体の気温の上昇についてシミュレーションをした結果です。

このまま温暖化が進んだらという一番厳しい条件の100年後の予測です。先ほど、高田さんからIPCCの予測で100年後に地球全体で気温が平均6.4℃上がるという説明がありました。決して地球全体で均一に上がるわけではなく、北極を中心に10度、12度クラスの気温の上昇があるだろうということを示しています。この辺も大変気になります。(図-28)

では日本はどうかというのがこのグラフで、オホーツク海のあたりは同じ日本でも随分気温が上がるだろうというところです。(図-29)

図-30は、1月と7月についての予測です。皆さんはどう見ますか？1月の方がずっと赤っぽいでしょう。7月の図はずっと白っぽいでしょう。つまり、同じ1年間の中でも冬の気温の上がり方が夏よりも極めて大きだろうというのが、今後温暖化が進んだときの日本全体の気温の上がり方の予測の大きな特徴です。あとで雪の話をしよと思っていただきますけれども、新潟にとって夏よりも冬の気温の上昇幅がこれからうんと大きいということになったら、一体どういう影響があるでしょうか。これを頭の隅っこに、しっかりと置いていただきたいと思います(図-27, 30)。

私のお話は一旦ここで区切ります。

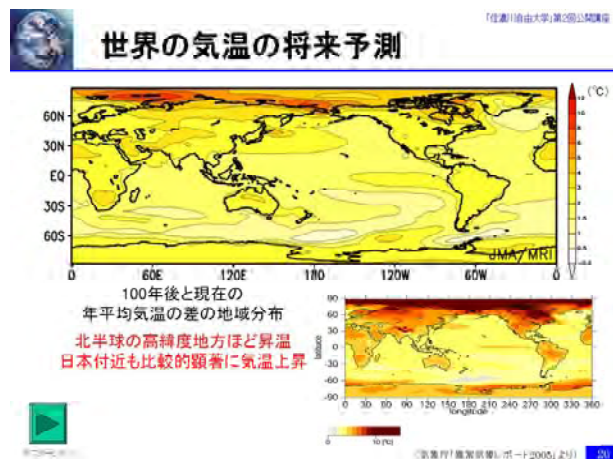


図-28

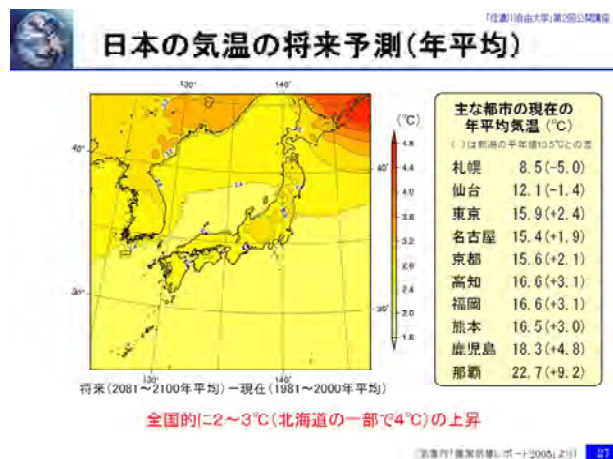


図-29

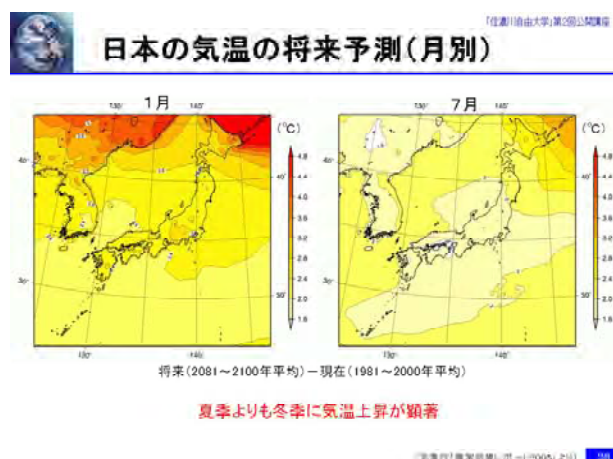


図-30